

30年ぶりの合唱団

Y.Y

「合唱団の親睦会に来ない？」とM夫人から声がかかった。30年前に所属していたが、独身の人は、どんどんカップルになってった中で、寂しかったのか、いつのまにか団をはなれていた。1996年定年前の55歳で退職し、ベトナムへ。ベトナム・ホーチミン(旧サイゴンー私はこの呼び名が好きである)で6年。それからタイ・バンコクへ移住。丁度2年近くで、体調を崩し、検査で一週間の予定の帰国が私の一生をひっくり返した。『癌』、それも限りなく末期に近いステージ。(詳しくは、<http://amoment.puppu.jp>)昔の同僚であり、山友達であったM夫人から声がかかったのは、癌の治療が一段落して、限られた命であれば、より日々を充実させたいと思っていた矢先であった。

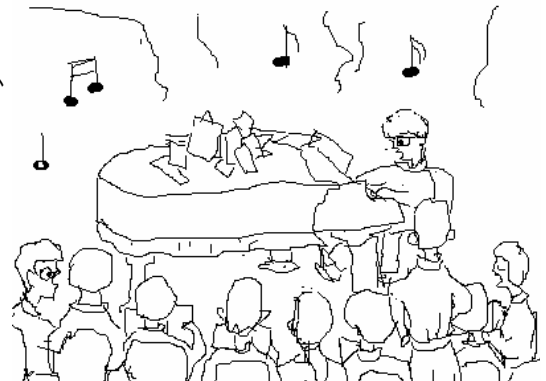
鶴見駅近くの食堂での30年ぶりの再会。懐かしい顔、顔、顔。あの時と其のままで素敵な小父様、小母様になっていた。ただ、MIさんの妹さんクーちゃん(Kさん)がいないのがちょっと寂しかった。私の『癌発表』には皆びっくりしたようだったけれど暖かく迎えてくれて、ほとんど昔の顔ぶれで、何だか暖かいものに包まれた気分になった。早速30年ぶりの帰団を決めてしまった。

それから5ヶ月が過ぎて、元気に団の美しいハーモニーを壊しながら、あつかましく歌い続けている。

『Super flumina Babilonis ~ バビロン河のほとり』、『Sicut cervus desiderat ~ 谷川の水を求める鹿のように』 私にとっては難しすぎる曲だけれど、他のパートを聞きながら歌う(?)と其の美しさに感動してしまう。また、難しい故に歌い甲斐がある曲だと思う。

『雨』も以前は男性合唱で聞いて好きなために口ずさんでいた曲だ。八木重吉作詞、多田武彦作曲、

雨があがるように、静かに死んでいこう、～繰り返し、現在の自分の心境にぴったりで心に染み入る曲である。まさに 終わりの日が来るまで、歌っていよう と意外に私は明るく元気なのである。この合唱団への復帰、癌という病も意外といい事を運んでくれたと思う。



実のところ、Y.Yさんの自宅から合唱団まで通ってくるのは、結構時間がかかりますから、ちょっと、ご無理かなと思いつつ、お誘いしました。でも、毎週通って来て下さり、私たちにとても良い刺激を与えて下さっています。今回、原稿を寄せていただき、それを読んだとき、私たちが、メンバーが少なくても歌い続けてきて本当に良かったと思いました。ちなみに、絵も山口さんがマウスを使って描いたものです。一人ひとり、合唱団のメンバーです。どれが、ご自分か分かりますか？それから、Y.Yさんが妹さんとホームページを開設していますが、そこに、Y.Yさんのコラムがあります。ベトナムのこと、癌のことなど、詳しくかいてあります。是非、見てください。アドレスは、Y.Yさんの本文中に書いてあります。

他の方も是非原稿をお寄せ下さい。楽しみに待っています。(K.M)